

セキュリティ特集

『北海道洞爺湖サミットをめぐる国際テロ情勢について』

総務科

先日、関西支社管理部 田口担当部長から「北海道洞爺湖サミットをめぐる国際テロ情勢」と題した講義を拜聴する機会を得ました。

これまで、東海道新幹線が「テロ」対象として狙われているとの話は耳にしたことはありましたが、今年7月に日本で開催される「洞爺湖サミット」を焦点として、その危機が増大しているという認識を新たにすると共に、『世界に誇る新幹線』を守るために心がけるべきことをご教示いただきましたので、田口部長の講義の内容の一部をご紹介します。

なお、「洞爺湖サミット」開催に向けて、「各科だより」ページにおいて、セキュリティ特集を掲載しますので、私たちが出来ること、なすべきこと等について、今一度考えてみようではありませんか！！

【洞爺湖サミット】

本年、7月7日から9日まで、北海道の洞爺湖に面した標高525mのボロモイ山、その頂上に立つ「ウインザーホテル洞爺」を主会場に「第34回北海道洞爺湖サミット」が我が国を議長国として開催される。(テロ情勢の高まりの中で、各国ともに、お城や離れ小島や海に浮かんだ船の上など、警備のしやすいところが会場に選定されている)

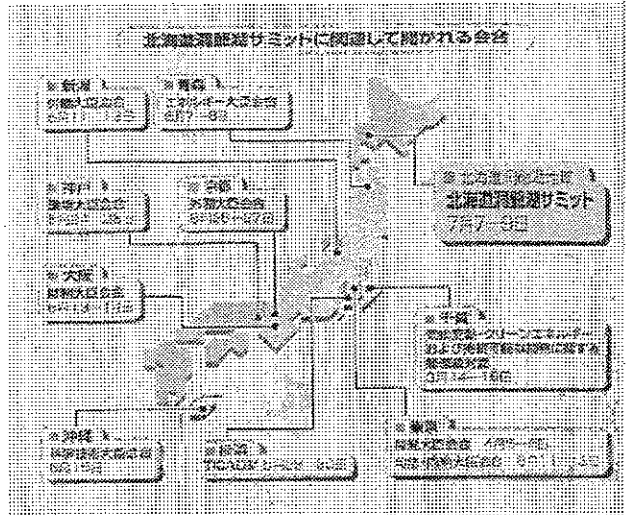
『サミットの意義と歴史』

- ・サミットは山の頂上といった意味で、「主要先進国首脳会議」と訳されていた。
- ・第一回サミットは1975年(昭和50年)仏の提唱でパリ郊外のランブイエに日・米・英・仏・西独・伊の6カ国の首脳が一堂に会し、経済問題や社会問題を話し合ったのが始まり。翌年にはカナダが加わり7カ国となり、またその翌年にはEC欧州共同体(今はEU欧州連合になっているが)が参加し、1997年(平9)・第23回米デンバーサミットで露が参加して今の形、即ち、G8+EUとなった。
- ・露が参加してから2回目となるバーミンガムサミット(1998年)以来、外相・財相など主要な閣僚会議も別に開催され、現在はこれらをひっくるめてサミットと呼ぶ。

【国際テロ情勢】

昨年一年間の国際テロの状況を見ると、イラク、アフガニスタン、パキスタン、アルジェリアなどアジアや北アフリカで自爆テロや自動車爆弾テロなどが頻繁に発生。

また欧州では、英・スコットランドのグラスゴー空港に車が突っ込み炎上するテロ事件等が発生した。これらテロ事件の多くは国際テロ組織「アル・カーイダ」等イスラム過激派による。



犯行と見られており、こうしたイスラム過激派の国際テロの脅威は引き続き非常に高く、この洞爺湖サミットを巡っても国際テロの発生が強く懸念されている。

【イスラム過激派って何】

世界には様々な宗教がある。信仰対象である「神」によって分類すると、

- ①多神教～神道やヒンドゥー教(信仰の対象たる神が複数存在する宗教)
- ②無神教～仏教や儒教、(信仰の対象たる神がない宗教)
- ③一神教～キリスト教・イスラム教・ユダヤ教
一神教のキリスト教とイスラム教(元はユダヤ教で兄弟宗教)キリスト教は紀元1世紀にユダヤ教から生まれ、イスラム教は紀元7世紀に同じユダヤ教から生まれた。どちらも一神教で、我こそが正しい宗教で唯一絶対のもので、他に神は存在しないと互いに主張している。

『イスラム教の概略』

- ・イスラムと言う言葉はアラビア語で「絶対服従」と言う意味。つまり、イスラム教徒とは「自分を無にして、神の意志や命令に絶対服従し、善行を積む人」と定義。
- ・イスラム教の戒律は厳しく5つの義務が科されている。その1つはシャハーダという信仰の告白でアッラーのほかには神なしと告白する義務。2つはサラートと言う礼拝の義務で1日5回の礼拝が義務付けられている。3つはザカートと呼ばれるもので、宗教税と訳され、お金を拠出する義務である。4つはサウムと呼ばれる断食の義務(9月、30日)。5つはハッジという巡礼の義務である。
- ・イスラム教は偶像崇拜を否定。イスラム原理主義のタリ

バンがアフガニスタンにあるパーミアン遺跡の仏像を破壊したのもこの考えによる。

※タリバンとは、イスラム教の神学生といった意味で、若者特有の狂信的・妄信的な一面と、貧困による教育不足からイスラム知識しか持ち合わせておらず、教義の原理原則に突っ走ることからイスラム原理主義者などとも呼ばれている。

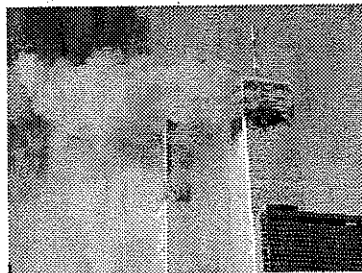
・イスラム教徒の特異な思想、「ジハード（聖戦）」がある。

※湾岸戦争時のイラクに対するアメリカの攻撃を「ユダヤと十字軍によるイスラムへの攻撃」と位置づけ、イスラムの大義を賭けた闘いとし、この聖なる戦いに身をささげた者は、いわゆる「殉教者」となり天国に行けると本気で考えていること。だから、自爆テロが後を絶たないわけである。

『オサマ・ビン・ラディン』

・1998年8月、ケニアとタンザニアのアメリカ大使館が同時に爆破され、220人の死者を出したこのテロにアメリカは激怒し、その約2週間後、スーダンとアフガニスタンの施設を空爆した。この事件の黒幕こそオサマ・ビン・ラディンである。

・オサマ・ビン・ラディンは、サウジアラビアの建設会社社長の17番目の子で、父から相続した3億ドル（330億円）を資金に、1988年アフガニスタンを拠点にテロ組織アルカイダを創設。1996年にタリバン政権に招かれアフガンに滞在。アメリカをイスラムの敵と位置づけ、対米戦線布告を出している。「2001.9.11アメリカ同時多発テロ」の首謀者でもある。
ビンラディンが世界のどこかにいる限り、必ずテロは起こる。しかも、今回は、この日本でテロが起こる可能性が極めて高い。



⇒その具体的な根拠として、

- ①今から5年前、アルカイダはアメリカの同盟国でありアメリカの中東政策を肯定する日本をテロの標的とするとのテロ宣言をしていること。
- ②4年前には日本でアルカイダ関係者と見られる人物が捕まっていること。
- ③アルカイダは、過去にテロ宣言をしてテロを実施しなかったことは一度もない。

【テロとは】

・テロリズム（テラー、テロリズム）とは、一般に恐怖心を引き起こすことにより、特定の政治目的を達成しようとする組織の暴力行為、又はその手段を指すとあります。

アメリカ国務省は次のように定義している。一定の政治的、

宗教的な目的の下に、

- ① 航空機、船舶、列車など輸送機関のハイジャックあるいはサボタージュ
- ② 要求貫徹の手段として人に対する拉致、監禁、殺害
- ③ 生物兵器、化学兵器、核兵器など不特定多数の無差別殺人用兵器の使用、あるいは、直接または間接に、多数人の安全を脅かす意図で爆発物や銃器の使用といった手段を行使して、国若しくはその国民を恐怖に落とし入れ、目的の実現を図ること。

※NBCテロ〜ニュークリア（核）、バイオロジカル（生物）、ケミカル（化学）

・テロのポイント（ターゲット）は、国民の誰もがごく普通に利用している場所、とりわけ簡単で、罪のない人をより多く大量殺戮できる場所や物が狙い眼…。（国際世論や世界にアピールできるため）

※過去のテロ事例

- ①2004年3月、スペイン総選挙の3日前に、アルカイダはスペインのマドリードで列車爆破の鉄道テロを起こし、200人以上を殺害、1500人以上に負傷を負わせた。その結果、イラクからスペイン軍を撤退させることに成功し、味を占めている。※このテロ集団が2003年に日本を標的にすると公言。
- ②今から3年前の「英・グレンイーグルズサミット」の時、首都ロンドンの地下鉄や、ロンドンのシンボリック乗り物である二階建てバスが爆破され、37人が死亡、800人近くが重軽傷を負った。



【JR 東海の役割】

・当社の使命は、東海道新幹線の安全・安定輸送の確保。そして新幹線をご利用していただく、お客様の安全、安心を提供することである。

・この情勢を踏まえて、社員一人ひとりが自らの考えで、自らの意志で、自らの力を最大限に発揮してテロに対抗し、使命を全うするという気概が不可欠。
・テロ対策の要諦はその未然防止である。とはいえ、テロを100%未然防止することは不可能である。しかし、平素の準備と心構え一つで、被害の拡大を押さえたり、被害を最小限に食い止めたりはできる筈である。

携帯品の厳正な管理

～テロリストに携帯品が渡ったら・・・～

運
送
科

運転科からのセキュリティに関する特集は「**携帯品の厳正な管理**」についてです。携帯品の厳正管理については今まで何度も訓練、掲示、当直でも周知徹底して参りました。では何故「**携帯品の管理**」の重要性を言い続けているのでしょうか？一度考えてみましょう。

● “テロ” は他人事ではない

乗務員の皆様が貸与されている貸与品、携帯品には制服、制帽、乗務用鞆、ネクタイ、Sカード、ATC開放キー（運転士）、鍵類（ハンドルキー、ディンプルキー2本、配電盤キー、搭載品箱キー、ラッチキー）、時計、その他携帯端末や車掌関係携帯品等々があります。

総務科の特集にある【テロとは】の章に『テロとは、一定の政治的、宗教的な目的の下に①航空機、船舶、列車などの輸送機関のハイジャックあるいはサボタージュ②要求貫徹の手段としての人に対する拉致、監禁、殺害③生物兵器、科学兵器、核兵器などの不特定多数の無差別殺人用の兵器使用、あるいは、直接または間接に、他人数の安全を脅かす意図的で**爆発物や銃器の使用**といった手段を行使して、国若しくはその国民を恐怖に落しいれ、目的の実現を図ること。テロのポイントは（ターゲット）は、国民の誰もがごく普通に利用している場所、とりわけ簡単で、罪のない人をより多く大量殺戮できる場所や物が狙い眼・・・。（国際世論や世界にアピールできるため）』

と記されています。

スペイン総選挙での列車爆破テロやイギリス地下鉄爆破テロを見れば左記の評論は**他人事ではない事を裏付けています。**

もし今回の洞爺湖サミットが国際世論や世界にアピールする最高の場であるとテロリストが考えれば、これほど怖いものはありません。

新幹線が狙われている事は数年前からまことしやかに言われている事であり、特に**東海道新幹線**が標的とされているとも言われています。今こそ我々のセキュリティ意識が問われます。

● 携帯品の紛失がテロを招く

もし**Sカード**が紛失しテロリストの手に渡ったとしたら・・・。**ハンドルキー**を紛失しテロリストの手に渡ったら・・・。そんな想像をしたことがあるでしょうか？

Sカードには暗証番号がかかっているとはいえハイテクを駆使する彼らにとってはそのセキュリティを突破する事は決して難しい事ではないかもしれません。ましてや、Sカードの暗証番号がわかるメモと一緒にSカードと入れておくということは、テロリストにセキュリティを突破してくれと言っているようなものです。

Sカードが運転台に入室する為に必要でありハンドルロックを解除するカードであるという知識があれば、そしてその裏に付いているATC開放キーが新幹線の保安システムを解除するものだということを知っ

ていたら、ハイジャックは容易となるばかりか、アメリカの貿易センタービルへの飛行機によるテロ同様ATC「切」とし東京駅へ突っ込む……。そんなことも可能です。考えただけでも恐怖です。テロリストの中には、飛行機を操縦する技術を持つ者もいます。そんなテロリストが、新幹線を研究し技術習得する事など問題なくやれてしまうかもしれません。

同様に、**制服、制帽、乗務鞆**がテロリストに渡ってしまったら……。鉄道庁舎内は何処でもフリーパスとなる可能性があるでしょう。国民の誰もがごく普通に利用している場所、とりわけ簡単で、罪のない人をより多く大量殺戮できる場所＝駅又は列車内へフリーパスで入れる訳です。運転台に居るときに、制服・制帽の人が扉をロックしたら、顔見知りでなかったとしても、大半の人が運転台の扉を開けるでしょう。要人が乗車する列車に制服・制帽で乗車し要人に近づき……。暗殺。そんなことが現実起こる可能性は充分にあります。

さらに、各種鍵類がテロリストの手に渡ったら……。ツナギ図やブロック図といった新幹線の構造がわかるものが世の中に流出したら……。考えただけでも私達が貸与されている物がどれだけ重要なかがわかるはずです。

ややもすれば、携帯品を紛失したことに對して、「人間だからミスしてもしょうがない」「携帯品が見つかったんだからいいじゃないか」的な安易な考え方もあるかもしれません。

しかし、もし自分が紛失した携帯品でテロ行為が発生し、尊い命が失われる事となってしまうたら、そんな事は言えないはずです。

●我々に出来る事

テロの可能性、そして携帯品の管理の重要性をここまで述べてきましたが、セキュリティを強化するにあたり、我々に出来ることとは何でしょうか。

ここまで読めば、その答えのひとつが、『携帯品の厳正な管理』であることはおわかりいただけたと思いますが、行動する上で大切なのは、

常に『携帯品の確認』を意識を持って行うということです。

携帯品の確認をできなかつたとき、

「忙しかったから、出来なかつた。」

「いつもやってるけど、今回は忘れた。」

と言いつてははいませんか？

本当に大事な事を忘れる人はいません。本当にやらなければならないことは、何があつてもやれるはずです。家の鍵や通帳・キャッシュカードのような自分にとって大切な物をその辺に放置しませんよね。

『携帯品の厳正な管理』とは、いかに携帯品を重要なものと認識できるかの能力を問われていると言っても過言ではありません。

●最後に

重ね重ね言いますが、今一度携帯品の管理を徹底し、降車前・降車後の携帯品の確認をしっかりと行って下さい。

これから起こるかもしれないテロをはじめとした数々の事態の原因が、自分にならないように、セキュリティ意識をしっかりと持つ様に厳命します。

我々の仕事は、テロを招くことではなくテロを防ぐことです。

セキュリティ特集

鉄道科

運転士におけるセキュリティ

運転士におけるセキュリティとは？

毎日の決まった作業を繰り返す中で、ことさらにセキュリティを意識して作業を行なっているでしょうか？先般ディンプルキーを交換したり、当直でSカードの確認を行ったりしている事に感度を上げているのでしょうか？詳しい事は国際テロ情勢のページにゆずりますが、運転士が出来るセキュリティ強化について少し話をします。

先ず大前提に妨害行為は抑止する事が第一義で、我々が成すべき事は確実な作業を完遂する事です。運転士は運転整備から出庫、営業運転を行ない入庫まで、列車の運行している間、その全てをコントロールしています。この間に「普段と違う」事が有れば、速やかに報告し対処する事です。出庫運転整備では営業前の列車が全ての用件を満たしているか？不具合はないか？確りと自信を持ったチェックを実施して下さい。

次に運転中ですが、東海道新幹線の沿線は様々な保安設備を擁しています。200mおきに赤外線センサーと光ケーブルで侵入者が有ると瞬時に監視センターに警報が入り警察に通報される仕組みになっていますが、走行中も感度良く周りを見ていれば不審な物、不審な人、トンネルやこ線橋など「ちょっと様子がおかしいぞ？」と思えば、直ぐに報告を入れる事です。

若い人たちは初めて聞くような話かも知れませんが、過去には右の写真のように新横浜駅近く（西に数百m・現在もコンクリートを補修した為、色の違いが分かる）の擁壁が爆破された事がありました。この事象は、ちょうど始発列車が新横浜駅を通過する前に起こり、駅員が爆発音と架線の揺れを感じて、機転を利かし列車防護スイッチを扱い列車を停止させ事なきを得ました。

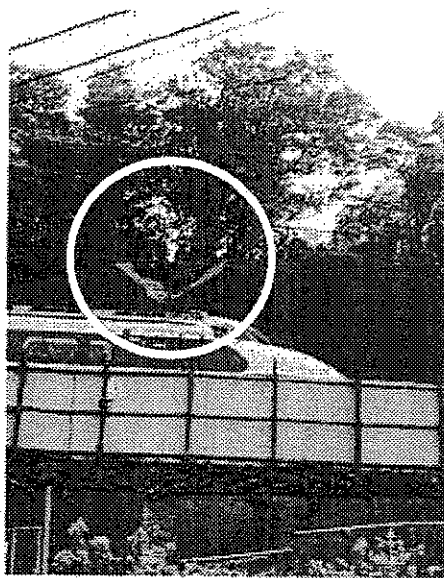
名神高速道路の彦根インター近くでは直径18mmの極太の鎖が線路に何重にも巻きつけられて、これに列車が衝撃して「あわや」の出来事が有りました。関ヶ原ではレールを留めているボルトが25本も抜き取られました。

その他諸々の小事や妨害は沢山ありますが、これらの列車脱線にも繋がる大きな事件は何れも犯人が捕まっていません。

日本人と言うのは冷め易く、直ぐに忘れてしまう事が多いのですが、これらの妨害事件は本当によく無事であったと感心するぐらいの事象です。不安を煽るつもりは有りませんが、こういう卑劣な行為は一見新幹線とは何の関係も無い様な理由で行われますが、それでも東海道新幹線が何者かに狙われている事は事実です。

それを阻止するのが我々の感性です。これからの半年間は特別に感度を上げてもらいたいものです。何か有れば直ぐに速報、隣接線に支障するような事があれば、EGSを投入する。これらの事は、常日頃に考えて置かないと、いざと言うときに「行動」が取れません。「こんな時はこうしよう」とシミュレーションされていなければ事が起きた時に呆然として対応が取れない事となります。

訓練や諸々の規程、それに心構え、安全綱領！全ては諳んじて覚えることが目的ではありません。物事の意味を理解し、普段の修練によって我が身を磨いて、事に臨んでは的確に行動して下さい。



爆破された東海道新幹線新横浜駅付近の擁壁

車掌が新幹線をテロから守るために

未然防止とテロ発生後の対応

乗務員科

これから7月のサミットに向けて様々な大臣クラスの会議が日本で行われます。総務科だよりに詳しく述べられているためここで詳細には触れませんが、日本のシンボルのひとつである東海道新幹線の業務に携わる我々はテロの脅威に対して警戒を強めてゆかねばなりません。今回は車掌としてテロの脅威にどのように立ち向かってゆくべきかをお話しします。

テロに対して車掌ができることは未然防止とテロ発生後の対応のふたつに分けることができます。未然防止とは日々のセキュリティに対する行動の積み重ね、テロ発生後の対応とは事前に必要な知識を持ちテロ発生後にその知識に基づき行動することとイメージしてください。

テロの未然防止をお話しするにあたり、テロの実行犯がどのように考えて行動するか想像してみましょう。テロリストはテロを起こす前に必ず下見をします。それは標的の弱点を見つけることとともに実行できるかどうか見極めるためです。いかにテロに命をささげる自爆テロの実行犯といえども自らの命を損なうからには失敗することは自らにとって許しがたいことですし、万が一逮捕されたときには殉教者になることができなくなり目的が達成できません。このため新幹線車掌の立場としてはテロの下見に来た実行犯にテロが困難であると理解させることこそテロの未然防止になります。自宅の鍵を2重ロックにすることにより空き巣に対して侵入が難しいとわからせることに似ているかもしれませんね。

では未然防止として我々が取るべきことはどういったことでしょうか。これはこれまで続けてきたセキュリティに対するチェックです。チェックリストに沿って客室妻側やゴミ箱、トイレなどをしっかりと確認し所在のわからないようなものがあつた場合、関係箇所と連絡を取り必要によってとりおろす。荷物の持ち主をひとつひとつ確認することにより、持ち主のいない荷物を特定しとりおろす。こういったことを全ての乗務員が漏れなく行っていることをテロリストに見せること、このことこそテロの未然防止となるのです。

続いてテロ発生後の対応についてお話しします。テロ発生後に我々が行わなければならないこと、これは第一に我々自身を取り乱さないことです。我々自身を取り乱すと他のお客様がパニック状態に陥りテロ自体の被害より大きな被害を生むことがあります。それを踏まえた上で、我々のなすべきことを場合に分けて解説します。

① 不審なものを発見した場合

不審物を取りおろすとともにお客様をその不審物の傍から避難させるに尽きます。列車を遅らせる、ニュースになる、警察や上司から事情聴取を受ける、などの考えが浮かぶかもしれませんが、これは行動しなければなりません。特にテロに狙われやすいこれからの時機は必須です。仮に空振りであったとしてもいいのです。それはそれで間接的に未然防止の役割を果たします。

② 爆破などの事故にあつたとき

お客様と自らの生きる術を駆使することです。煙が立ち込めていたら身をかがめてぬれたタオルを鼻と口にあて有毒ガスを吸わないようにする。火がつきそうなものがあればそこから避難する。鉄道であれば感電も考慮に入れるべきでしょう。このような知恵は日々の想像力で培われます。「事故が起こったら何が起こるか？」これを考えながら乗務を行うことがいざという時の助けになります。

爆破にあつたら生きていないと思うかもしれませんが、しかし日航機事故でも生存者はいました。

最後に、持ち主不明の荷物の確認の実績を見るに、実績の極端に少ない乗務員がいることがあります。既に個別にお話した乗務員もいますが、このような乗務員は自ら乗務する東海道新幹線の安全を自ら守るのではなく、他の乗務員の力によって守ってもらっているとと言えます。それはとても情けない話です。自らの責任を果たすということを念頭に置き、日々テロに対する未然防止を行うとともに発生後の対応を理解し行動できるよう積み上げていきましょう。